

宇和島市立伊達博物館

愛媛県宇和島市御殿町9-14

TEL:0895-22-7776 FAX:0895-22-7819

<http://www.city.uwajima.ehime.jp/datehaku/>

- 開館時間：午前9時～午後5時(入館受付は午後4時30分まで)
- 休館日：毎週月曜日(月曜が国民の祝日の場合は翌火曜日が休館)、年末年始(12月29日～1月3日)
※展示替等に伴い臨時休館する場合がありますのでお問い合わせください。
- 入館料：大人500円 大・高生400円 中学生以下無料
※団体(20名以上)、65歳以上の方、身障者手帳をお持ちの方は、大人400円、大・高生200円となります。
- 交通：宇和島駅より徒歩25分(無料駐車場あり)



宇和島市立伊達博物館は、江戸期に藩主であった宇和島伊達家の伝来品を中心に展示を行う登録博物館であり、宇和島市制50周年事業の一環として、昭和49年に開館しました。現在博物館が建っている場所は、かつて「浜御殿」と呼ばれた宇和島伊達家の広大な御殿跡の一角であり、「御殿町」の町名で呼ばれています。(財)宇和島伊達文化保存会所蔵の約1200件の宇和島伊達家の伝来品、並びに約3万3000件の古文書の保存状態は良好で、質・量共にすぐれた貴重な史料であり、歴史研究におけるさらなる発展の可能性を秘めたものです。

当館は、この(財)宇和島伊達文化保存会所蔵の宇和島伊達家伝来品を中心に常設展示を年に2回行っており、レプリカを使用することなく、すべて「本物」を展示しております。また、5月の連休には、教科書で使用されていた国指定の重要文化財「豊臣秀吉画像」の特別展示、2～4月には宇和島伊達家の雛道具と共に、高さ約2メートル、幅約8メートルの壇に飾られる大正時代の雛人形の特別展示なども行っています。

宇和島伊達家とは、仙台の伊達政宗の長男・伊達秀宗を藩祖とする10万石の大家です。秀宗は幼少の頃、豊臣秀吉のもとで人質として過ごし、秀吉から「秀」の文字を与えられ秀宗と名乗るようになりました。秀吉の没後は、徳川家康の人質となります。秀宗は、生母

が側室であったことや、秀吉の元にいたことで豊臣家側と見られがちであったことから、長男でありながら仙台伊達家を継ぐことにはなりませんでしたが、父政宗と共に徳川家側として大坂冬の陣に出陣したことを認められて、徳川幕府から伊予宇和島10万石の領地を与えられたと言われています。以後、宇和島伊達家は、9代藩主宗徳^{むねとく}の代まで宇和島を治めて、明治維新を迎えました。明治維新後は「幕末四賢侯」の1人である8代藩主宗城^{むねなり}の活躍から、侯爵家となっています。

幕末における宇和島藩は、この宗城^{むねなり}主導のもと、高野長英・村田蔵六(のちの大村益次郎)を呼び寄せて外国書の翻訳事業を行い、それらを基にして小藩でありながら砲台を築き、日本で2番目に蒸気船を製造しています。特筆すべきは、まだ武士の時代であった幕末期にこの蒸気船を作ったのは、宇和島のまちに住んで提灯張り^{かざり}をしていた町人・嘉蔵^{かざう}(のちの前原巧山^{こうざん})であったことです。さらに、イギリス公使パークス、外交官アーネスト・サトウが訪れ、友好の印として船旗の交換を行うなど、幕末史上、注目すべき歴史を有しています。

上記のような歴史のある宇和島伊達家の伝来品は、伊達政宗や豊臣秀吉たち戦国武将にゆかりの品々や、幕末から明治維新にかけての文書・書簡類など、さらに、宇和島伊達家歴代の藩主・藩主夫人所用の武具、



梨子地雪薄紋折枝桜文蒔絵雑調度 香盆
香盆 縦10.8×横15.4(cm)
(財)宇和島伊達文化保存会蔵

焚柄入壺



銀製小雑道具 菊花飾台

高さ(台含む)7.0(cm)
(財)宇和島伊達文化保存会蔵
宇和島伊達家10代夫人孝子は、紀州徳川家出身。26点あるうちの1点。14代将軍徳川家茂の遺品で、孝子夫人が婚礼の際に持参したとされる。

左から盆にのっているのが焚柄入壺、香筋建・香筋、重香合。続いて灰押、銀葉挟、火味見。焚柄入壺と、魚々子の技法の見られる香筋建には、小さい雑道具ながらも精巧な桜文が彫られている。

書画、能・香・楽器など芸能の諸道具、調度、陶磁器、古文書類などで構成されており、江戸期の大家、大名道具や当時の技術などを知るうえで貴重な史料群となっています。金工技術が用いられた伝来品としては、甲冑や刀装具などの武器類、水滴などの文房具類、香道具の香合類、化粧道具の鏡やお歯黒道具類、床飾類、手焙類、銀器などがあります。さらに、蒔絵の道具を飾る金具部分にもすぐれた金工技術を見ることができ、当館においては常時、何らかの金工技術が用いられた宇和島伊達家の伝来品を展示しているといえます。これらの品々から、大家の生活がどのようなものであったかをうかがっていただけるのと同時に、江戸期の職人の技術水準の高さ、さらには「本物」のもつ凄みも感じていただくことができるものと自負しております。

(宇和島市立伊達博物館学芸員 山口美和)



向雀竹文手炉

胴径27.3×径18.8×高さ19.1(cm)
(財)宇和島伊達文化保存会蔵
手炉とは、小形の火鉢で、手焙ともいう。天皇から下賜されたもの。



牡丹蝶の彫銀製香合

縦6.5×横5.0×高さ2.2(cm)
(財)宇和島伊達文化保存会蔵
黒塗牡丹唐草文蒔絵香道具箱の内容品の一つ。蝶は、飾りだけでなく開閉時のつまみとなる。



猿筆架

幅9.3×高さ5.7(cm) (財)宇和島伊達文化保存会蔵
人の悪夢を食べるという想像上の動物・猿の筆架として伝来している。

平成22年後期常設展のご案内

宇和島の礎を築いた藩主たち - 藩祖秀宗から中興の祖村侯まで -

企画展

吉田藩御掛屋佐川家 - 江戸時代の両替商と吉田藩との関わり -

上記会期 / 平成22年6月18日(金)~12月25日(土)